

校区によって現状や課題は様々であるため、市社会福祉協議会では、小学校区ごとに地域福祉活動を進めてきました。

今後、それぞれの校区で、くるめ支え合うプランを实际情况に合わせてどう具体化していくか、地域の皆さんと一緒に考え、校区版のくるめ支え合うプランとも言える、校区福祉活動計画の策定を支援します。

校区福祉活動計画を策定する

から「傾向」や「予防策」を見出し、地域住民と共有し、地域住民と専門職が一緒に個別支援に取り組むことで、住民の課題を見つめる力、対応する力の向上が図られます。そうした連携が深まることで、課題の深刻化や発生予防にもつながります。

今回の計画では、取組み内容を「地域住民等ができること」「久留米市社会福祉協議会が取り組むこと」「久留米市が取り組むこと」にわけています。

三者それぞれが役割を果たし、互いに協力しながら取り組むことで、人々が安心して暮らしていける久留米市を目指します。

課題に対応する取組み

- | | | |
|---|---|---|
| <ul style="list-style-type: none"> 1 つながりの構築 2 見守り活動の推進 3 誰もが集える場の拡充 | <ul style="list-style-type: none"> 4 個別の対応が必要な人への支援 5 災害時に支援が必要な人への支援 6 権利擁護の推進 7 多機関連携の推進 8 財源確保の推進 | <ul style="list-style-type: none"> 9 地域における人材の育成 10 地域コミュニティ組織等への支援 11 社会福祉法人・学校・事業所等の地域貢献の促進 12 福祉人材の養成と資質の向上 13 福祉への理解を深める取組みの推進 |
|---|---|---|

関係を豊かにする **寄り添う体制を整える** **地域をともに創る人を育てる**

めざす姿 支え合うところあふれるまち くるめ

久留米市社会福祉協議会「中期経営計画」を策定しました

市社会福祉協議会では、今後の役割及び事業のあり方と実施体制などについての方向性を示し、持続性のある安定的な経営を行うために、本会経営の基本とする中期的な計画と位置づけ、令和2年度～令和7年度までの6年間を計画期間とする「中期経営計画」を策定しました。計画内容については次のとおりです。

- 1 基本理念**
地域共生社会の実現に貢献する
- 2 基本方針**
 - ① あらゆる生活課題への対応
 - ② 地域のつながりの再構築
 - ③ 地域から信頼される組織づくり
- 3 今後の取組み**
 - ① 地域福祉活動の推進支援**
 - ① 「くるめ支え合うプラン」の地域展開
 - ② 見守りや支援の対象者を拡大
 - ③ コミュニティ組織との新たなネットワーク化
 - ④ 興味や関心事を軸として集う市民グループとの連携
 - ⑤ 地域福祉を担う人材の育成
 - ② 相談・支援**
 - ① 組織内の情報を支援活動に活かす
 - ② 継続的で柔軟な対応を行っていく
 - ③ 地域へのきめ細やかな働きかけ
 - ④ 要支援者の情報を速やかに把握する
 - ③ 権利擁護**
 - ① 法人後見事業 ② 市民後見人の育成
 - ③ 中核機関連業務の受託 ④ 日常生活自立支援事業

- ④ 在宅福祉サービス**
 - ① 要介護認定調査業務の整理
 - ② 介護保険事業経営の方向性の決定
- ⑤ 災害への対応**
 - ① 災害ボランティアセンター運営と本会の業務執行体制の確保
 - ② 非常時の支え合い
- ⑥ 情報の発信・広報**
 - ① 計画的、効果的な広報
 - ② 積極的な情報公開

- 事務局体制**
- ① 組織**
 - ① 企画・調整機能の強化
 - ② 新たなニーズに対応した組織の見直し
 - ② 職員**
 - ① 人材の育成
 - ③ 事務事業**
 - ① 事務事業の見直し
- 財源**
- ① 財源の確保・活用**
 - ① 公募事業への参画
 - ② 自主財源の確保

※詳しくは、市社会福祉協議会ホームページ
くるめ支え合うプラン・中期経営計画をご覧ください。

<http://www.heartful-volunteer.net/>



「支え合うところあふれるまち くるめ」をめざして

くるめ支え合うプランが完成しました

期間 令和2年度から令和7年度



久留米市の特長として、医療施設や社会福祉施設、支援関係機関などが充実し

取組みの推進

今回の計画の特徴は、ヒアリングやワークショップ、アンケートなどで地域の現状を把握することから始め、そこから課題を整理し、具体的な取組みを検討したところです。そして、協議会で何度も議論を重ね、住民の皆さんの意見を反映しました。

住民主体で策定

くるめ支え合うプランは、それぞれの地域で人々が安心して暮らせるよう、地域住民や官民の社会福祉関係者が互いに協力して、地域の福祉課題の解決に取り組んでいくための計画です。

今回初めて、市の地域福祉計画と市社会福祉協議会の地域福祉活動計画を一体的に策定しました。この計画は、地域住民の皆さんや、様々な分野の関係機関が、世代や分野を超えてつながり、実践されていくことが重要です。そのため、策定にあたっては、こうした様々な分野の人が参加する協議会を開催しました。



協議会で熱心に議論する皆さん

現在も、個別支援と地域づくりは連携して行われていますが、今後、その連携を充実させていくことが必要です。

専門職が中心となつて行う個別支援の積み重ねから見てきた「成果」や「課題」を、ふれあいの会をはじめとする地域のつながりを基盤とする活動や、課題や思いを共有するNPOなどの活動（地域づくりの充実）が活発であることがあげられます。

地域の皆さんの声から久留米市の課題を見つける



久留米市ならではの課題を把握するため、平成30年度より、市と市社会福祉協議会では、市内5か所でのワークショップや、市民団体・当事者組織など54団体63か所へのヒアリングを行いました。

多くの皆さんにご協力いただき、現在の活動や今後の展望など、様々な声を聞かせていただきました。「困ったときに相談してもらえたい存在になりたい」「自分たちができることを続けていきたい」など前向きな声も聞かせる一方、「後継者がいない」「本当に必要な人に情報が届いていない」など、課題もたくさん挙がりました。

お忙しいなか、ご協力いただいた皆さん、本当にありがとうございました。

また、くるめ支え合うプランの中には、地域福祉につ

いてイメージでき、今後支え合う活動に参加する人が増え、活動が充実するよう、現在行われている多様な活動や取組みを多数紹介しています。

活動のヒントにしていただき、一人ひとりができることから始めてみませんか。



ワークショップの様子